

## 『古事記』・『日本書紀』 何が違う？

### (1)最初に現れた神

古事記 : 天之御中主神

日本書紀 : 国常立尊

### (2)二柱が生んだ島々

古事記 : 水蛭子と淡島は伊邪那岐神と伊邪那美神からわが子として認知されなかった。

日本書紀 : 女が先にものを言うのは不祥であるとして、仕切り直しをしてから、生まれた島が不満足で、淡路州と名づけられた。

### (3)伊邪那美神を葬った場所

古事記 : 出雲国と伯岐国との境、比婆の山

日本書紀 : 紀伊国の熊野の有馬村との説が載っている。

### (4)伊邪那美神の死と伊邪那岐神の黄泉巡り

古事記 : 最後の場面は、伊邪那美神が「あなたの国の人々を一日に千人絞め殺しますよ」と言ったのに対して、伊邪那岐神は「わたしは一日に千五百の産屋を建てるとしよう」で終わっている。

日本書紀 : この続きがあり、「これより入ってはならぬ」と言って、杖、帯、さるまた、履を投げ捨てたとある。

### (5)天照大御神・須佐之男命・月読命の誕生

古事記 : 伊邪那岐神が顔を洗った時に、左目を洗った時に「天照大御神」、右目を洗った時に「月読命」。鼻を洗った時に「須佐之男命」が生まれたとされている。

日本書紀 : 伊邪那岐神と伊邪那美神が相談して生んだとされている。

### (6)伊邪那岐神が隠棲した地

古事記 : 淡海の多賀

日本書紀 : 淡路

### (7)須佐之男命の身の潔白のための誓約

古事記 : 事前の取り決めがなく、物実（何から生まれたか）を重視し、須佐之男命が女神を生んだから潔白としている。

日本書紀 : 事前に取り決めがあって、須佐之男命から男が生まれたから身の潔白が証明されたとしている。

### (8)天の岩屋に籠るきっかけとなった出来事

古事記 : 機織女の一人が驚きのあまり機織の梭で自分の陰部を突いて死んだから。

日本書紀 : 天照大御神自身が怪我をしたから。

### (9)大気都比売神（五穀を生んだ神）を殺したのは？

古事記 : 須佐之男命が殺したとされている。

日本書紀 : 月読命が殺したとされている。なお、大気都比売神は異説に、保食神として登場している。

### (10)大国主神の出自

古事記 : 須佐之男命の六世の子孫。

日本書紀 : 須佐之男命と櫛名田比売（奇稻田姫）との間の子とされている。

### (11)須佐之男命が新羅に渡ったエピソード

古事記 : 記述なし。

日本書紀 : 異説で、須佐之男命はまず新羅の国へ下り、それからたくさんの樹木の種を携

えて、息子の五十猛尊とともに土船に乗って、出雲にやってきたとある。

(12)因幡の白兔

古事記：大穴牟遲神（大国主神）が白兔を助けた。

日本書紀：記述なし。

(13)大国主神の試練

古事記：求婚に失敗した八十神が大国主神を妬んで何度も殺し、生き返って逃れた先の須佐之男命の下でも試練を与えられたれるが、それを乗り越える。

日本書紀：記述なし。

(14)大国主神と少名毘古名神（大国主神の国造りを手伝った）との出会い

古事記：出雲の美保の岬で出会ったとされる。

日本書紀：出雲の五十狭々の小汀で出会ったとされる。

※美保の岬と五十狭々の小汀は島根半島の東端と西端で正反対の位置。

(15)天照大御神が葦原中国を譲らせるために大国主神に遣わした使者

古事記：天菩比神と天若日子と鳴女（雉）

日本書紀：天菩比神と天若日子との間に天菩比神の子、大背飯三熊之大人が遣わされる。

また、最初の説では高皇産靈尊が遣わしたとある。

16)天若日子の死と葬儀場所

古事記：朝の床に寝ていた時、葦原中国にて葬儀。

日本書紀：新嘗の行事のあと仰臥していた時、高天原にて葬儀。

(17)葦原中国譲り

古事記：天照大御神に派遣された建御雷之男神と建御名方神との力比べの話のみで、流血はない。

日本書紀：武甕槌神と経津主神が派遣され、大国主神が隠れた後、従わない国つ神に対して徹底した討伐が行われた。

(18)天照大御神の孫、邇邇芸命の降臨（天孫降臨）

古事記：三種の神器を携え、お供の神々を従えて高千穂に降り立った。

日本書紀：邇邇芸命は真床追衾という掛け布団に包まれて地上へ降りた。

(19)邇邇芸命の結婚

古事記：木花之佐久夜毘売とその姉石長比売を送られたが、石長比売は醜女だったため、送り返された。木花之佐久夜毘売のみを選んだために、寿命が限られるようになったとされている。

日本書紀：石長比売の話は、本文にはなく、異説にあるのみ。

(20)邇邇芸命と木花之佐久夜毘売との間に生まれた子の順序

古事記：火照命（＝火闌降命＝海幸彦）火須勢理命（＝火明命）、火遠理命（＝彦火火出見尊＝山幸彦）の順番。

日本書紀：火闌降命（隼人の祖とされる）、彦火火出見尊（神武天皇の祖父とされる）、火明命（尾張連の祖とされる）の順番

(21)山幸彦の大綿津見神の宮殿からの帰途

古事記：和邇（サメ）に乗って帰り、お礼に紐付きの小刀をやったとある。

日本書紀：記述なし。

(22)豊玉毘売の出産予告

古事記 : 記述なし。

日本書紀 : 山幸彦が帰途に着くにあたり、豊玉毘売から、「わたしはすでに孕んでいます。・・・産屋を作って待っててください」と言われたとある。

(23)豊玉毘売の正体

古事記 : 和邇

日本書紀 : 龍

(24)豊玉毘売の妹、玉依毘売の登場

古事記 : 豊玉毘売が海へ帰った後、子供（天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命）の養育係として遣わされた。

日本書紀 : 豊玉毘売が懐妊を告げる時に、海辺に連れて来た。

※天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命と玉依毘売との子の一人が神武天皇

【神武以降の時代】

(1)神武東征の経路(1)と期間～長髓彦の迎撃まで～

古事記 : 日向→宇沙（宇佐）→岡田宮→埃宮→高島宮→速吸門→浪速の渡→白肩の津 ここまで16年以上

日本書紀 : 日向→岡水門→宇佐→埃宮→高島宮→浪速の渡→白肩の津 ここまで半年

(2)神武東征の経路(2)～長髓彦の迎撃から即位まで～

古事記 : 白肩の津→血沼海→男之水門→熊野村→吉野→宇陀→忍坂→畝火 ここで即位

日本書紀 : 白肩の津→血沼海→男之水門→竈山→名草邑→神邑→熊野村→宇陀→吉野→忍坂→畝火 ここで即位

(3)神武天皇へ八咫鳥を遣わした神

古事記 : 高木神

日本書紀 : 天照大御神

(4)忍坂の八十建（ヤソタケル）

古事記 : 大室に一人。

日本書紀 : 磯城邑に磯城の八十梟帥（ヤソタケル）がいて、葛城邑には赤銅の八十梟帥がいるとされる。

(5)長髓彦を討ったのは？

古事記 : 神武天皇の軍勢

日本書紀 : 邇芸速日命（櫛玉饒速日命）←長髓彦の妹を妻にしている。物部氏の祖とされ、天照大御神の孫にあたる。

(6)神武天皇と結婚した伊須気余理比売の父

古事記 : 大物主神

日本書紀 : 事代主神

(7)神武亡き後の伊須気余理比売を妻とした当芸志美美命の殺害方法

古事記 : 神沼河耳命（綏靖天皇）が剣で殺害

日本書紀 : 神沼河耳命（綏靖天皇）が弓矢で殺害

(8)崇神天皇時代の疫病

古事記 : 崇神天皇本人が夢で大物主神に神託を受ける→神の社を定め、墨坂神と大坂神に楯と矛を献った

日本書紀 : 崇神天皇のおば倭迹迹日百襲姫命 (孝霊天皇皇女) が依り代になり神託を受ける→八十万の神々を祀った

(9)大毘古命に少女が歌った歌

古事記 : 「御真木入日子印恵命 (崇神天皇) よ、そなたの命をこっそりと奪おうと、裏門から、表門から、隙を狙っているのも知らないで、御真木入日子印恵命よ」

日本書紀 : 「御間城入彦 (崇神天皇) よ、そなたの命を奪おうと、隙を狙っているのも知らないで、若い娘と遊んでいるよ」

(10)少女の歌の意味を悟った人物

古事記 : 崇神天皇本人

日本書紀 : 倭迹迹日百襲姫命

(11)倭迹迹日百襲姫命と大物主神との結婚

古事記 : 記述なし

日本書紀 : 倭迹迹日百襲姫命が大物主神の本来の姿を見てしまい、大物主神が去ってしまう。後悔した倭迹迹日百襲姫命が座り込んだ拍子に、箸で陰部を突いて命を落とした。その墓を箸墓という。

(12)沙本毘売 (開化天皇の孫娘) が兄、沙本毘古王に垂仁天皇を暗殺するよう説得される場面

古事記 : 沙本毘古王が「妹よ、まことにわたしのことを愛しいと思うのであれば、わたしとそなたとで、天の下を治めようではないか」と言って説得する。

日本書紀 : 「容姿をもって人に仕えるのでは、色香が衰えたら寵愛は終わる。いま天下に美人は多い。誰もが寵愛されることを求めている。どうして容姿だけを頼みにできようか。そこで願うことは、私が皇位に即くことだ」と言って説得する。

(13)沙本毘売の出産 (子は本牟智和気御子)

古事記 : 天皇暗殺を白状した後、兄のもとへ逃げ込んだ後。

日本書紀 : 兄のもとへ逃げ込む前。

(14)本牟智和気御子が口をきけるようになったきっかけ

古事記 : 白鳥を見るだけではダメで、出雲で参拝をすることで口がきけた。

日本書紀 : 白鳥を見るだけで口がきけるようになった。その白鳥は出雲で捕まえられたとある。

(15)景行天皇の熊襲建討伐したのは？

古事記 : 息子の小碓命 (日本武尊)。

日本書紀 : 在位 12 年目で、景行天皇自身。

在位 27 年目で、日本武尊に川上梟帥を討伐させる。

16)日本 (倭) 武尊の命名

古事記 : 討伐の際、熊襲建の弟により命名。

日本書紀 : 初めから日本武尊となっている。

(17)日本武尊東征の随行者

古事記 : 吉備臣の祖、御友耳建日子

日本書紀 : 吉備武彦、大伴武日連、七掬脛の3人

(18)尾張での美夜受比売との結婚

古事記 : 記述あり

日本書紀 : 記述なし

(19)東征でだれの火攻めにあったか？

古事記 : 相模(相武)国造

日本書紀 : 駿河の賊

(20)日本武尊が出会った伊服岐山の神の使い

古事記 : 白い大きな猪

日本書紀 : 大蛇

(21)日本武尊が死んで白鳥になって飛んでいった先

古事記 : 河内国の志幾(大阪府八尾市)

日本書紀 : 古市邑(大阪府羽曳野市)

(22)日本武尊を悼んだ景行天皇の巡幸

古事記 : 記述なし

日本書紀 : 日本武尊の平定した東国へ。

(23)神功皇后に憑依した神の神託を受けた顔ぶれ

古事記 : 天皇・皇后と建内宿禰のみ

日本書紀 : 群臣も

(24)仲哀天皇の死亡時期

古事記 : 神託の直後

日本書紀 : 神託の後、熊襲討伐に失敗し発病し、その翌日。

(25)仲哀天皇の死後の儀式

古事記 : 国を挙げての大祓の儀式

日本書紀 : 群臣と百寮に命じて、罪を祓い、過ちを改めたのみ。

(26)神功皇后の新羅降伏後の帰路

古事記 : 船団は九州北部から瀬戸内海を進み、兵庫か大坂で戦いになったとある。

日本書紀 : 船団は二手に別れ、皇后は難波へ。御子(応神天皇)は紀伊水門へ。

(27)忍熊王(応神天皇の異母兄)と神功皇后が戦った場所

古事記 : 大坂

日本書紀 : 宇治

(28)額田大中彦皇子の屯田、屯倉の支配権争い

古事記 : 記述なし

日本書紀 : 記述あり

(29)宇遲能和紀郎子(応神天皇の子、大山守命の異母兄弟)の亡くなり方

古事記 : 大山守命を殺した後、病死。

日本書紀 : 「自分は兄(仁徳天皇)の志を変えられないことを知った。長生きをして天下を

煩わすのは忍びない」と言って、自殺。

(30)新羅から来た王子（天之日矛）と神功皇后との関係

古事記：神功皇后の母方の祖先

日本書紀：血縁関係は示されておらず、神功皇后は開化天皇の曾孫で、気長宿禰王と葛城高ぬか媛の娘とあるのみ。

31)天之日矛の持ってきた宝の行方

古事記：出石神社に祀られた

日本書紀：垂仁天皇に捧げた

(32)天之日矛の上陸（出石までの）ルート

古事記：難波で上陸しようとするが、上陸できず、出石（但馬国）で上陸。

日本書紀：播磨国で上陸し、垂仁天皇に宝を捧げ、諸国を巡り、出石へ。

(33)仁徳天皇の皇后（石之日売命）が浮気に怒って向った先

古事記：山代国へ入り、筒木に住む韓人（百濟人）、奴理能美の屋敷に留まった。

日本書紀：山城国へ入り、筒城岡の南に宮殿を作って住んだ。

(34)仁徳天皇と皇后の仲直りの小道具

古事記：蚕

日本書紀：特になく、しかも仲直りすることもなく、皇后は宮殿で亡くなる。

(35)仁徳天皇が聖帝とされた瑞祥の起きた場所と時代

古事記：雁の卵は日女島、不思議な高い木の話は仁徳天皇の時代

日本書紀：雁の卵は茨田の堤、不思議な高い木の話は景行天皇の時代の話。

(36)墨江中王（仁徳天皇の息子で、履中天皇の兄弟）の履中天皇殺害の理由

古事記：特に記述なし

日本書紀：履中天皇の後（黒媛）を天皇になりすまして、婚礼の前夜に犯してしまったことが発覚して処罰をされるのを恐れたため。

(37)履中天皇逃避行の同行者

古事記：阿知直（渡来系二大氏族の一つ漢（アヤ）氏の祖、出身は伽耶とされている）のみ

日本書紀：阿知直、平群のつくすの宿禰、物部大前宿禰の3人

(38)墨江中王を暗殺した隼人は？

古事記：曾婆加里

日本書紀：刺領巾

(39)允恭天皇の子同士（軽太子と軽大郎女）の恋の発覚

古事記：軽太子の詠んだ歌が広まってしまった。

日本書紀：占いの結果

(40)軽太子の自殺

古事記：軽大郎女と一緒に自殺

日本書紀：物部大前宿禰の屋敷に逃げ込み、そこで自殺した説と伊予に流されたという説がある。

(41)大長谷王子（允恭天皇の子）による白日子王（允恭天皇の子）殺害の理由

古事記：天皇仇討ちの気乗りが薄なため。

日本書紀：天皇を殺した目弱王と通じていると疑われたため。

(42)大長谷王子による黒日子王（允恭天皇の子）をいつ殺害したか？

古事記：白日子王と同時に殺害。

日本書紀：黒日子王は目弱王と都夫良意富美の屋敷へ逃れ、そこで一緒に殺された。

(43)雄略天皇と一言主大神（葛城氏が信奉する神）との出会い

古事記：葛城の山に登ったときに、向かいの山の尾根を登っていた。

日本書紀：葛城の山に狩に登った時に、谷間で行き会った。

(44)雄略天皇の一言主大神への態度

古事記：畏怖して、自分やお供の持ち物全てを差し出した。

日本書紀：共に狩を楽しみあった。

(45)市辺之忍齒王（履中天皇の息子）の遺児（弘計王、億計王）が発見された時期

古事記：清寧天皇の没後

日本書紀：清寧天皇の生前。

(46)飯豊王の即位

古事記：清寧天皇の死後、市辺之忍齒王の妹の飯豊王が天皇の代行を務めたとある。

日本書紀：弘計王、億計王が譲り合って、なかなか即位しなかったため、仮に朝政をみるとある。

(47)顕宗天皇（弘計王）即位のきっかけ

古事記：権臣の志毘臣を滅ぼした後、譲り合った結果とある。

日本書紀：飯豊王の死を受けて。

(48)父（市辺之忍齒王）を殺した雄略天皇の陵墓破壊

古事記：兄の億計王が自ら出かけ、土を少しだけ掘り、それを以って「壊しました」と報告した。

日本書紀：億計王の説得によって取り止めとなった。

(49)磐井の乱の記述

古事記：外交関係の記述は全くなく、ただ、筑紫君磐井は無礼なことが多かったのも、物部荒甲大連と大伴金村連を派遣して殺害したとあるのみ。

日本書紀：任那が百済に4県を割譲し、そこで朝廷が任那に対して行った出兵を新羅と結んだ磐井が妨害。物部荒甲大連が派遣され、筑紫君磐井を殺害。

(50)仏教伝来

古事記：記述なし

日本書紀：欽明天皇の時代に百済の聖明王より伝来。この仏教の導入をめぐる、蘇我氏と物部氏が抗争。

(51)蘇我馬子による崇峻天皇暗殺

古事記：記述なし

日本書紀：東漢直駒を使って暗殺。